

⑭ 瓶 栓

⑰ 願 昭49-9846

⑱ 出 願 昭49(1974)1月22日

⑲ 考 案 者 林田孝一

奈良県北葛城郡広陵町萱野651
の1

同 林田光治

奈良県北葛城郡広陵町寺戸27

⑳ 出 願 人 林田孝一

奈良県北葛城郡広陵町萱野651
の1

㉑ 代 理 人 弁理士 斎藤秀守 外2名

㉒ 実用新案登録請求の範囲

弾力性を有する合成樹脂製の瓶栓において、内

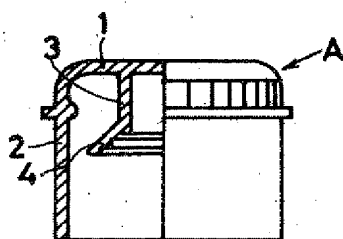
筒3または筒壁5に、外端部が斜め上向きで、瓶口内壁に接する逆スカート状部12を、それぞれ一体的に設けたことを特徴とする瓶栓。

図面の簡単な説明

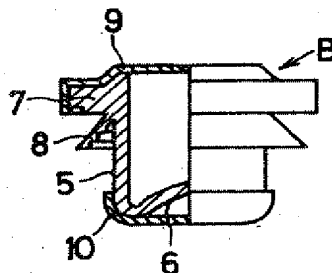
第1図～第3図は従来の瓶栓の例を示すもので、第1図は従来の瓶栓Aの一部断面図、第2図は従来の瓶栓Bの一部断面図、第3図は瓶栓Bの打栓時における要部の説明図、第4図～第6図はこの考案の実施例を示すもので、第4図はこの考案による瓶栓A'の一部断面図、第5図はこの考案による瓶栓B'の一部断面図、第6図は瓶栓A'の打栓時における一部断面図である。

1……頂壁、2……外筒、3……内筒、5……筒壁、6……伸縮部、7……上部周縁部、9……金属製カバー、10……アルミニウムシートによるカバー、11……瓶口、12……逆スカート状部。

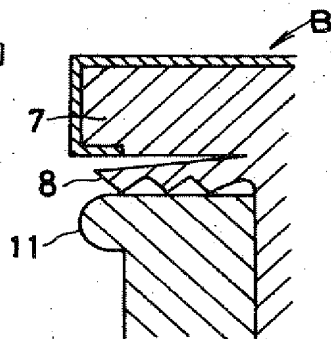
第1図



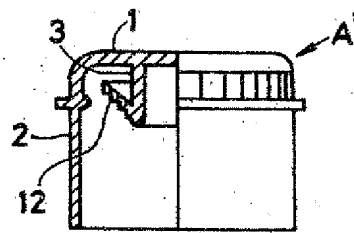
第2図



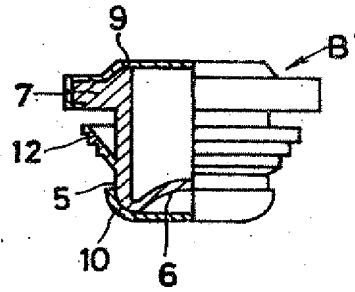
第3図



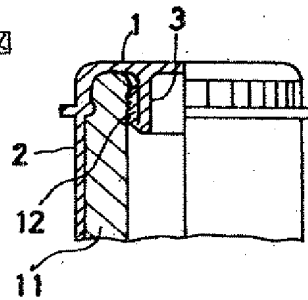
第4図

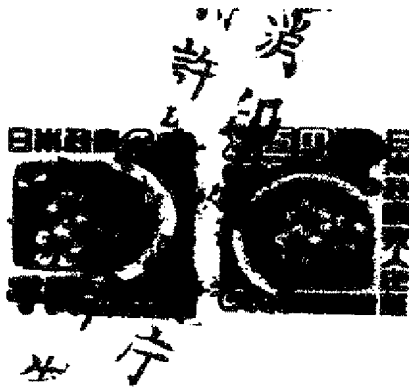


第5図



第6図





(1500円) 実用新案登録願

昭和 49 年 1 月 22 日

特許庁長官 齋藤 英 雄 殿

1. 考案の名称

ピン セン
風 機

2. 考 案 者

住所 奈良県北葛城郡広陵町萱野 65101
氏名 林 田 孝 一 外 1 名

3. 実用新案登録出願人

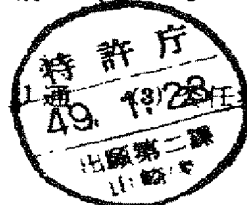
住所 奈良県北葛城郡広陵町萱野 65101
氏名 林 田 孝 一

4. 代 理 人

住所 東京都中央区日本橋通 2-6-3 齋藤特許ビル
氏名 (3351) 弁理士 齋 藤 秀 守 外 2 名

5. 添附書類の目録

(1) 明細書 1 通 (2) 図面 1 通
(4) 審査請求書 1 通



49 100846



特 許 公 報

1 考案の名称

瓶 栓

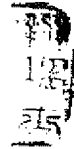
2 実用新案登録請求の範囲

弾力性を有する合成樹脂製の瓶栓において、
内筒 8 または筒壁 5 に、外端部が斜め上向きで、
瓶口内壁に接する遊スカート状部 12 を、それぞ
れ一体的に設けたことを特徴とする瓶栓。

3 考案の詳細な説明

この考案は瓶栓等に用いられる瓶栓の改良に
関するものである。

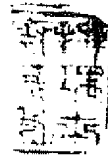
従来弾力性をもつた合成樹脂製瓶栓の一種と
して、才 1 図および才 2 図に示すような瓶栓が
用いられてきた。これらの瓶栓の構造および作
用を説明すると、才 1 図において瓶栓 A は、頂
壁 1 に円筒状の外筒 2 が連成されており、この
外筒 2 の内部に、外筒 2 と同心円状に、頂壁 1
を共有して内筒 3 が設けられており、この内筒
3 の下部にはスカート状部（以下単にスカート
と言う）4 が連成されている。そしてこの瓶栓 A



が瓶に打栓される場合、瓶口によりスカート4は上方に反転させられ、この反転したスカート4と、頂壁1、および外筒2の三者により、前記瓶口は密着挟持される。即ち密封される。この場合反転したスカート4はパッキングの役をするのである。

次に才2図に示す瓶栓Bは、伸縮部6を底として有する底付筒状の瓶栓で、7は筒壁5の上部周縁部であり、8は上部周縁部7の筒壁5に対するつけ根部分から、斜め下方に向けて一体的に設けられたスカートである。なお9は金属製カバー10はアルミニウムシート等のカバーを示す。そしてこの瓶栓Bが瓶に打栓される場合、瓶口によりスカート8は上方に、水平迄曲げられ、瓶口上端と上部周縁部7の下面とに挟まれてパッキングの役をするのである。

次に、前記A、Bの瓶栓に共通した構造として斜め下向きに設けられたスカート4、同8があるが、この構造について次のような欠点があった。



即ち瓶檢Aのスカート4については、打檢され、反転させられたスカート4がパッキングとして強く瓶口に嵌当する力は、このスカート4が瓶口により半径方向に圧縮變形させられることに対する復元力が主であつて、この復元力を強めることがパッキング作用を強めることになるので、そのためスカート4は圧縮變形がしにくく、曲げにくく作られている。しかしこのように作られたスカート4は、打檢時の瓶口によるその反転に対し抵抗が大きくなる欠点があつて、打檢に際して反転しない部分が生じたりすることがあつた。そのため打檢前に1工種を加え、スカート4を予め反転させておき、その後で打檢しなければならなかつた。

次に瓶檢Bのスカート8については、瓶檢Bが打檢された場合に、そのパッキングとしての機能は、スカート8の、瓶口による曲げ變形に対する復元力によつているので、パッキング機能を強めるためこの復元力を強くすると、才3圖に示すようにスカート8は瓶口11の上を押



し、その反作用により瓶栓3自体が押し上げられ、密封効果が減少してしまうのである。

このように従来のスカート4、筒8等の構造には大きな欠点があつた。

この考案はこのような欠点をなくすために行われたもので、その構造は、弾力性を有する合成樹脂製の瓶栓において、内筒3または筒壁5に、外端部が斜め上向きで、瓶口内壁に接する逆スカート状部12を、それぞれ一体的に設けたことを特徴とする瓶栓である。

これを図について説明すると、才4図において瓶栓A'は頂壁1に円筒状の外筒2が連成されており、この外筒2の内部に、外筒2と同心円状に、頂壁1を共有して内筒3が設けられている。

茲は内筒3の下部に、内筒3に連成した外端部が斜め上向きの逆スカートである。この瓶栓A'は上記のように構成されたから、打栓に際しては才6図に示すように瓶口11はその内壁により逆スカート12を、反転させずにそのまま半徑方向に圧縮変形しつつ装着される。この場合逆



スカート環は、従来例のスカート4のように反転させられないので打栓時の抵抗が少なくてすみ、従来の、打栓前に予めスカート4を反転させておく工程が省略できる。

このようにこの考案の瓶栓によれば工程省略により打栓能率を上げられるのである。

また才5図において瓶栓7は伸縮部8を底として有する底付筒状の瓶栓で、7は筒壁5の上部周縁部であり、環は筒壁5に一体的に設けられた外端部が斜め上向きの、逆スカートである。この瓶栓は上記のように構成されたから、才6図に示すを同ように打栓した場合逆スカート環は瓶口11の内壁により栓の半径方向に圧縮変形されてパッキングの役をする。そして従来例の瓶栓3のスカート8が示す前記の欠点、即ちパッキング効果を高めることにより瓶栓3自体が浮上ると言う欠点は、この考案の逆スカート環を上記のように構成したことにより、逆スカートのパッキングとしての、圧縮変形に対する復元力は瓶栓7の半径方向に働くので解消すること

は容易に理解することができよう。

なおこの考案による瓶栓は製造に際し、道スカート12、から金型を取り去ることが一見不可能のように考えられるが、弾力性を有する合成樹脂材料を用いることにより、実際には可能なのである。尚道スカート12は複数個でもよい。

4. 図面の簡単な説明

才1図～才3図は従来の瓶栓の例を示すもので、才1図は従来の瓶栓Aの一部断面図、才2図は従来の瓶栓Bの一部断面図、才3図は瓶栓Bの打栓時における要部の説明図、才4図～才6図はこの考案の実施例を示すもので、才4図はこの考案による瓶栓A'の一部断面図、才5図はこの考案による瓶栓B'の一部断面図、才6図は瓶栓A'の打栓時における一部断面図である。

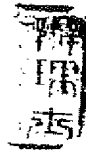
1 … 頂盤

2 … 外面

3 … 内筒

5 … 筒壁

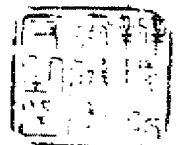
6 … 伸縮部



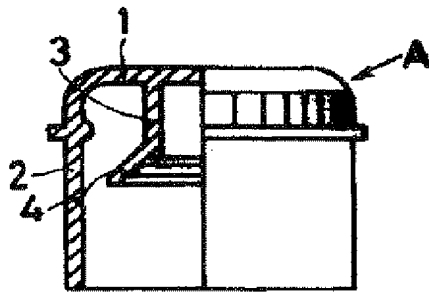
- 7 ... 上部周縁部
- 9 ... 金属製カバー
- 10 ... アルミニウムシートによるカバー
- 11 ... 瓶口
- 12 ... 逆スカート状部

代理人弁護士 斎藤 秀 守

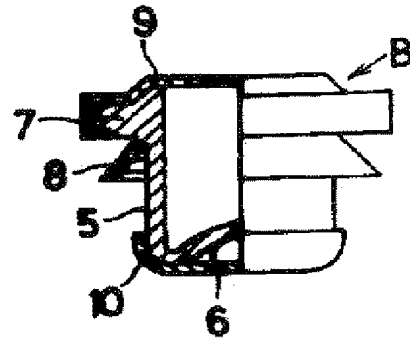
外 2 名



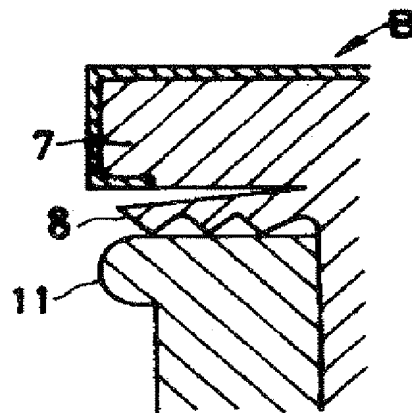
第 1 図



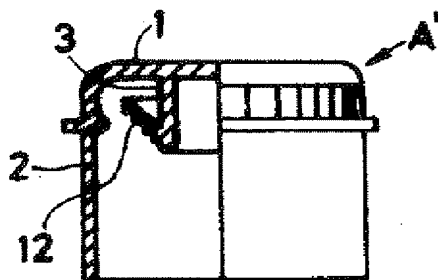
第 2 図



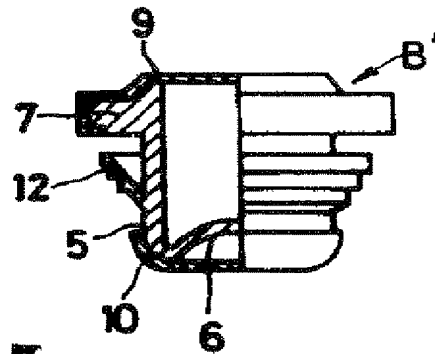
第 3 図



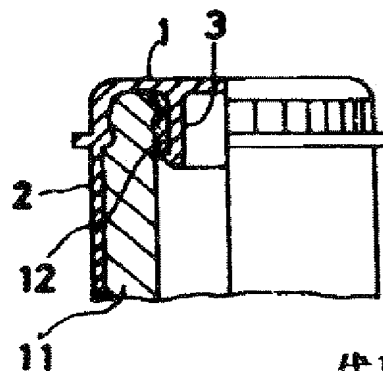
第 4 図



第 5 図



第 6 図



102747

代理人 斉 藤 秀 守

47



● 前記以外の考案者及び代理人

(1) 考 案 者

キタカツラギケンコウリョウマチテラド

住 所 奈良県北葛城郡広陵町寺戸 27番地

氏 名 ^{ハヤシ}林 ^タ田 ^{ミツ}光 ^{ヘル}治

(2) 代 理 人

住 所 東京都中央区日本橋 2-6-3 新藤特許ビル

氏 名 (6128) 弁護士 新 藤 情



住 所 同 上

氏 名 (7310) 弁護士 清 水 正 之

